声を聞く：「瞑想」の翻訳について

Aaron Poochigian

Japanese

声を聞く：「瞑想」の翻訳について

by Aaron Poochigian

声を聞く：「瞑想」の翻訳について

『Meditations』を出版するまで、私は詩の翻訳しかしたことがありませんでした。芸術としての言葉に関して言えば、私は何十年も詩（自分の詩と翻訳）だけに集中してきました。私はメールや詩を紹介する短い文章に散文を使っただけでした。当時の私の意図は、散文を明確かつ簡潔にすることでした。つまり、機能的で、できれば楽しく、おそらく役立つものにすることでしたが、文学的にしようとはしませんでした。『瞑想』の翻訳を始める 1 年ほど前から、私は芸術としての散文について考え始めていました。私も少し書き始めてみました。そういう短い断片があちこちに出てきました。しかし、「瞑想」の翻訳は、私の最初の継続的な文学的散文の試みです。

それでも、マーカスの芸術性を英語で表現しようと座ったとき、私の直感は詩人の本能でした。私は、翻訳全体を通して「充電」、つまりエネルギーと興奮を維持する必要があると感じました。試しに「Meditations」のいくつかのエントリを試してみた結果、その責任を維持できるのは音声であるという結論に達しました。この作品には、尊大で疑問に満ちた声、称賛と非難の声が豊富に含まれています。私の翻訳作業の多くは、英語で同等の語調を見つけるために、古代ギリシャ語での彼らの語調を聞くことで構成されていました。

エントリーの大部分は、男性が自分自身を説教するもので構成されています。この再帰的な取り組みからは、インストラクター (またはトレーナー) のマーカスと志願者 (または研修生) のマーカスという 2 人の主要なスピーカーが登場します。インストラクターの仕事は、原則を広め、浸透させることです。彼のしばしば不機嫌で率直な命令は、「あなた」、つまり「私」と話す志望者のマーカスに向けられています。志望者は応募作品の約 10% で講演者になります。インストラクターとは異なり、彼は傷つきやすい可能性があります。たとえば、彼は怒りの問題を抱えており、内なる苦しみの原因は自分にあると告白している。志望者の「私」は日記の「私」に最も近い。

第三の声、いわゆる反対者の声にも、独自のトーンと魅力があります。彼の仕事は、インストラクターの口説き役になることです。次のようなやり取りがあります。

あなたの中にロゴはありますか？

私はします。

それならなぜ使わないのでしょうか？ (ブック 4、エントリー 13)

これらの最も顕著な 3 つの声を、より大きな哲学的な心理ドラマの中で役割を果たしている登場人物の声と考えるとわかりやすいでしょう。彼らに加えて、架空の雄弁家や俳優、そしてマーカスが引用した多くの作家の声もあります。一人の男の作品である「Meditations」は多声的ですが。

私は、インストラクター、志願者、反対者がどのような活動をしているかを示す一連のエントリーを抜粋として選びました。 4.42 では、志願者のマーカスは最も弱い立場にあり、「私」として自分が痛みの原因であることを認めています。ストア派では、痛みは感覚を痛みとして解釈する内なる評価に依存するため、痛みは自分自身によって引き起こされます。完全に完成したストア派は、内なる決断を用いて痛みをシャットアウトすることができるでしょう。 4.43 では、志願者のマーカスは、彼が「支配力」と呼ぶものを養うためにできる 3 つのことを挙げています。私たちはそれぞれ 1 つを持っており、そのそれぞれが宇宙を運営する神の合理性であるロゴスとのつながりです。

4.44 では、講師のマーカスが「瞑想」の中で、名声を求めるのは時間の無駄であるという顕著なテーマを再び紹介します。マーカスは、私たちの後ろには過去、そして未来には無限の時間が存在すると信じています。しかし、私たちは決して過去や未来にいるわけではありません。私たちは常に現在にいるだけです。名声を求める人は、自分が死んで子孫が与えてくれる名声を享受できない未来に向けて生きるために、今この瞬間を無視するという誤った方向に導かれています。 4.45 で、志願者マーカスは、自分の支配力である「[彼の]内にある神性」が良好に機能しており、さまざまな形の劣化から解放されていると自信を表明しています。 4.46 では、インストラクターは、宇宙の生命システムである自然が、常に個々の種に、それぞれの性質や目的に必要なものを正確に与えていると説明しています。それは完璧であり、間違っていません。

4.47 では、すべての否定的な感覚は、私たちが経験していることに対する精神的な誤った評価から生じると説明するインストラクターがいます。反対者はこのエントリで 2 回口論している。彼は人間の目的に対する障害について泣き言を言います。インストラクターは、障害は私たちのせいではない、私たちはそれを受

け入れるべきだと答えます。また、障害に悩まされてまったく前に進めないなら、自殺すべきだとも言っています。 4.48 で、インストラクターは、私たちの支配力が情熱から解放されると「難攻不落の精神的要塞」になると説明しています。

最後にもう一つ、立ち止まって、「瞑想」が読者を惹きつけるトリックを理解する必要があります。マーカスが（自分自身に）呼びかけている「あなた」とは、自分自身のことを指していると受け取らずにはいられません。もともとは一人の男が一人の男のために書いたものですが、そのオープンな「あなた」はすべての人を受け入れます。それは私たちを受け入れ、ストア派の志願者にし、自己改善の旅に送り出します。現代の読者だけでなく、古代の読者もマーカスの言葉の治療力を認識していました。西暦 1 千年紀後半の詩には、ある (匿名の) 読者の「瞑想」に対する熱意が伝わってきます。

どんな痛みを感じても乗り越えるために

この祝福された本を開いてよく読んでください。

関連する豊富なルールを発見します。

これからどうなるのか、今あるもの、そしてこれまでにあったもの

そして、過ぎ去る喜びは心の痛みのように、

一筋の煙以上の物質はありません。 （ギリシャ語詩集、15.23）